

第 3 ・ 4 学年 社会科

1 学年の目標

理解	(1) 地域の産業や消費生活の様子，人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動について理解できるようにする。 (2) 地域の地理的環境，人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにする。
態度	(1) 地域社会の一員としての自覚をもつようにする。 (2) 地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。
能力	地域における社会的事象を観察，調査するとともに，地図や各種の具体的資料を効果的に活用し，地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力，調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

2 指導の要点

(1) 問題解決的な学習の充実

社会科では，従来から問題解決的な学習が重視されてきた。学習指導要領では，その一層の充実を求めている。それは，基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれを活用して課題を解決していく上で必要となる思考力，判断力，表現力等の育成を重視しているからである。社会科において，その両者をバランスよく一体的にはぐくむには，問題解決的な学習の一層の充実に努めることが有効かつ必要である。

社会科の問題解決的な学習には，一般的に二つの要件が欠かせない。一つは，学習者である児童が自らの問題意識に即して「自発的に問題をとらえる」ことである。もう一つは学習者である児童が「自ら考えることによって学習問題を追究・解決していく」ことである。

つまり，これからの社会科では，児童が自ら問題をとらえ，その問題を追究・解決していくプロセスを一層充実させること，それを通して知識や技能，思考力や判断力，表現力等を身に付け活用できるようにしていくことが求められている。

① 学習問題を共有する指導

問題解決的な学習では，学習問題をみんなのものにしていくこと（共有化）が不可欠である。そのためには，指導の工夫をすることが大切である。

- まず、「おもしろそうだ」という事実に出会わせ，児童の心を学習の対象に惹き付けるようにする。
- 次に，個々の驚きや素朴な疑問などをきっかけとして，児童の直感や経験，すなわち既存の常識的な見方や考え方では解釈・説明のつかない状況を経験させる。
- 最後に，そこで味わった驚きや疑問をみんなのものにしていく（共有化）。

学習問題は，児童の問題意識と表裏一体の関係で成り立つ学習の問題（社会科学学習のねらいを実現するもの）であることが必要条件である。学習問題の設定に当たっては留意し，適切な指導に努めなければならない。

- 学習問題を追究していくことにより，「単元の目標が実現できるか」という視点から，学習問題を十分に吟味する。
- 協働学習者とのかかわりの中で，個々の驚きや疑問がみんなの問いとして方向付けられ，焦点化されるようにする。
- 個々の児童が，学習問題の追究・解決の見通しをもてるように，発達段階に応じて，調べる視点や事柄，方法や手順，表現方法やまとめ方などを決め，具体的な学習計画を立案する。

なお、本教育計画案の授業展開例における学習問題については、児童の発達段階を考慮して第3・4学年では生活科の活動や体験を通して気付きを得る流れを引き継ぎ、地図や紙芝居等の具体物の作成過程にかかわる様々な学びを習得していくことを意図する学習問題となっている。

② 学習問題に即して調べ、表す指導

「学習問題に即して、調べ、表す」ことを繰り返し指導することが大切である。児童は調べる学習に没頭すると、「何のために」「何を」調べているかを見失ってしまうことも多いので、それを防ぐための指導が必要である。

- 観察や調査、各種の資料を活用して調べる学習などにおいて、常に学習問題を意識させる。
- 調べたことを表現する場面において、表現していることが学習問題と離れてしまうことがないように、機会をとらえて一斉にあるいは個々に助言したり、学習問題を常掲して意識付けたりする。

また、観察・調査、資料活用の技能を高め、児童が自力で調べる力を育てることも、問題解決的な学習を充実させる上で必要不可欠である。

③ 学習問題の解決に向けた思考・表現活動

学習問題の解決に向けて考えたり表現したりする活動を工夫することが大切である。

具体的には、調べたことを比較（比べる）・関連付け（つなげる）、総合（まとめる）しながら、学習問題の解決に向けて再構成する学習、考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合う（説明し合う）ことにより、お互いの考えを深めていく学習の充実を図ることが大切である。

その際、言語活動の充実に努め、他者とのコミュニケーションによって生まれる協働的な学び合いを大切にしていくことが重要である。

(2) 観察・調査、資料活用の技能を高める学習の充実

社会科においては、観察・調査、資料活用の技能を、児童の発達段階や学習経験に応じて系統的、段階的に育成することを重視している。そのような基礎的スキルを確実に習得させることが、問題解決的な学習を充実させ、思考力や判断力、表現力等を育成する上で欠かすことができないからである。

① 観察・調査の技能の習得

第3・4学年で習得させたい技能は五つである。

- 諸感覚を働かせ、ありのままに観察する。
- 数や量に着目して調査する。
- 観点に基づいて観察、調査する。
- 他の事象と比較しながら観察、調査する。
- 周りの諸条件と関係付けて観察、調査する。

また、指導計画の作成や日々の指導も大切である。

- ・ 第3・4学年の地域学習において重点的に指導する。
- ・ 見通しをもち、ステップを踏んで計画的に指導する。
- ・ 実際の指導場面では、一人一人の学習状況に応じて必要な助言を具体的に行うなど、きめ細かく指導・支援する。

② 資料活用の技能の習得

当該学年で習得させたい技能の「読み取り」と「収集、選択、再構成」の具体である。

読 み 取 り	収 集 ・ 選 択 ・ 再 構 成
<ul style="list-style-type: none"> ◎資料から必要な情報を読み取る。 ◎資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎必要な資料を収集する。

また、指導計画の作成や日々の指導も大切である。

- ・ 教師の意図的・計画的な働き掛けにより、継続して指導する。
- ・ 教科書にどのような資料が掲載されているのかを把握し、指導の見通しをもつ。
- ・ 写真、グラフ、分布図、地図、年表、文章資料など、資料のタイプ別の読み取り方のポイントを明らかにし、指導に臨む。

(3) 言語活動の充実

基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の育成のために、社会科の特性に応じた言語活動の充実を図る必要がある。

① 言葉の役割を踏まえた指導の工夫

ア 社会科では、観察・調査や資料の読み取りなどを通して社会生活の様子や仕組み、それを支える人々の働きなどを読み解いていく際、見付けたり読み取ったりした事実やその解釈（意味付けたこと）などを、主として言葉に置き換え、記録したり発表したりする。言葉を仲立ちとして事実の一部を切り取り、意味付け、解釈を加えながら社会的事象をとらえさせるようにする。

イ 児童一人一人がとらえたい幾つかの社会的事象を相互に比較し、違いや共通点を見いだしたり、願いと工夫、目的と手段などの関係に着目しながら事実を再構成したりする。それを通して社会的事象に意味を付与し、理解を深めさせる。

ウ 学級の仲間と対話し、意見を交わし合い、自分と異なる見方や考えをもつ他者の存在によって自分の考えや判断をより確かなものにさせていく。

② 体験的な活動やそれに基づく表現活動の充実

社会科では、実社会に生きる人々に直接かかわって学ぶ体験を重視しており、観察や調査・見学などの体験的な活動やそれに基づく表現活動の充実を図る。

ア 単元の目標・内容を実現する上で必要度の高い体験を指導計画に位置付け、体験の明確なねらいを設けて行うようにする。

イ 体験後の振り返りの学習では、体験（具体）と言葉（抽象）の間をつなぐ表現を工夫する。

ウ 体験を通して獲得したことを言葉に置き換え、言葉による表現活動において活用できるようにする。

③ 「考えたことを表現する力」の育成

「考えたことを表現する力」を育てる指導を工夫することが必要であり、「調べたことの表現」に加え、「考えたことの表現」を一層重視する。

第3・4学年は、地域社会の社会的事象の特色や事象間の関連などについて、自分の考えをまとめ伝え合うことによって表現することが重視されている。

3 内容の取り扱い

(1) 身近な地域や市の地形、土地利用、公共施設などの様子

① 身近な地域や市（区、町、村）の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから残る建造物など

ア 主な公共施設とは、公共施設に加え、スーパーマーケット、銀行などの多くの市民が利用している施設も含む。

イ 古くから残る建造物とは、神社、寺院、伝統的な家屋や家並を含む。

(2) 地域の生産や販売に携わっている人々の働き

① 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること

② 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり

ア 「生産」については、農家、工場などの中から一つを選択して取り上げる。

イ 「販売」については、商店を取り上げる。

(3) 地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動

① 飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり

② これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること

ア 「飲料水、電気、ガス」の中から一つを選択して取り上げる。

イ 「廃棄物の処理」は、ごみ、下水のいずれかを選択して取り上げる。

- (4) 地域の人々の安全を守るための諸活動
- ① 関係の諸機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること
 - ② 関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること
 - ア 「災害」については、火災、風水害、地震などの中から一つを選択して取り上げる。
 - イ 「事故の防止」については、交通事故などの事故防止や防犯を取り上げる。
- (5) 地域の古い道具、文化財や年中行事、地域の発展に尽くした先人の具体的事例
- ① 古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子
 - ② 地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事
 - ③ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例
 - ア 開発、教育、文化、産業などの地域の発展や技術の開発に尽くした先人の具体的事例の中から一つを選択して取り上げる。
- (6) 県（都、道、府）の地形や産業、県内の特色ある地域
- ① 県（都、道、府）内における自分たちの市（区、町、村）及び我が国における自分たちの県（都、道、府）の地理的位置、47都道府県の名称と位置
 - ② 県（都、道、府）全体の地形や主な産業の概要、交通網の様子や主な都市の位置
 - ③ 県（都、道、府）内の特色ある地域の人々の生活
 - ④ 人々の生活や産業と国内の他地域や外国とのかかわり
 - ア 特色ある地域については、伝統的な工業などの地場産業の盛んな地域を含めて、自然環境、伝統や文化などの地域の資源を保護・活用している地域の中から二つ程度を選択して取り上げる。

4 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
社会的事象への関心・意欲・態度	地域における社会的事象に関心をもち、それを意欲的に調べ、地域社会の一員としての自覚をもつとともに、地域社会に対する誇りと愛情をもとうとする。
社会的な思考・判断・表現	地域における社会的事象から学習問題を見いだして追究し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて思考・判断したことを適切に表現している。
観察・資料活用の技能	地域における社会的事象を的確に観察、調査したり、地図や各種の具体的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。
社会的事象についての知識・理解	地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動、地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きを理解している。